



志位和夫



はたの君枝



さいとう和子



しいば かずゆき

発行 日本共産党国会議員団  
2018年12月 南関東ブロック事務所  
横浜市神奈川区西神奈川1-10-16  
斎藤ビル2F Tel 045-324-6516

# 国会活動報告

## おごれる政権に退場の審判を 国会議員団総会で志位委員長があいさつ

第197回臨時国会が閉会した12月10日、志位和夫委員長は議員団総会であいさつし、「統一地方選と参院選で、市民と野党の共闘を成功させ、日本共産党の躍進で、おごれる安倍政権に退場の審判を下そう」「国民に説明できない、だから審議なしで強行する。これは安倍政権の『強さ』の表れではなく『破綻』の表れだ」と指摘しました。また、今国会で「野党合同ヒアリング」がさらに発展し、改定人管法では外国人技能実習生から実態を聞いたことが世論を変える大きな力となったこと、政府が提出を拒んだ失踪技能実習生の聴取票を、野党議員が力を合わせて書き写す「写経共闘」で、法案の土台を崩壊に追い込んだこと、憲法審査会への自民党改憲案の提案を断念に追い込んだことを「今国会における野党共闘の最大の成果」と強調しました。



議員団総会であいさつする、志位委員長

## 山梨県知事選挙に花田氏

山梨県の「明るい民主県政をつくる会」は12月24日、甲府市内で記者会見し、県知事選挙に、明るい会公認・日本共産党推薦で、党県委員長の花田仁氏を擁立することを発表しました。会見で花田氏は、県民の福祉を守るという自治体本来の役割を果たすために、①巨大開発を見直し税金の使い方を「くらし最優先」に転換する、②9条改憲は許さず、消費税10%にきっぱり反対するなど、県民の声が通る県政に転換する「二つの転換」をめざすと表明しました。



## 木更津オスプレイの追加整備なぜ？防衛相に説明を要求



右から、金沢市議、丸山県議、さいとう氏、はたの議員、しいば氏、浅野氏=12月20日国会

党千葉県委員会は12月20日、防衛省に対し陸自木更津駐屯地での米海兵隊オスプレイの定期機体整備の状況について説明を求めました。機体整備は、同駐屯地内の格納庫で、スバルが昨年2月1日から9月上旬までの予定で実施していましたが、いまだに1機目の整備が終わっていません。防衛省は今年9月、格納庫内での分解、整備などを終え、点検後試験飛行を行うと発表しましたが、「追加の作業を行う必要が生じた」としました。防衛省担当者は、「格納庫内で部品の交換などの作業を行っている」と答えました。

参加者は、この段階での追加整備はきわめて異常で深刻な事態と指摘。陸自オスプレイの配備そのものを撤回すべきと求めました。はたの議員、しいばかずゆき参院比例予定候補、浅野ふみ子参院選挙区予定候補、丸山慎一県議、金沢和子船橋市議、さいとう和子前衆院議員らが参加しました。

## 「いずも」空母化やめよ 防衛省に要請

はたの議員は12月19日、岩屋防衛相あてに、海自いずも型護衛艦の攻撃型空母への改修に抗議し、中止を求める要請文を提出しました。また、しいば氏、あさか由香参院選挙区予定候補も参加し、横須賀港の海自横須賀地方総監部の職員に要請文を手渡しました。しいば氏は「攻撃能力が強化される。憲法に違反している」と批判。あさか氏は「これまで政府自身が攻撃型空母は持てないと言ってきた」と抗議しました。

防衛省への要請には、加藤なを子県議、松本春男、上田博之の両綾瀬市議が同席。自衛隊への要請には、井坂しんや県議団長、大村洋子、ねぎしかずこ、両横須賀市議と、県原水協など神奈川の3団体も参加しました。



右から、あさか氏、しいば氏、はたの議員、井坂県議、大村、ねぎし両横須賀市議

## 建設国保への補助 維持求める

日本共産党国会議員団6人は12月5日、建設従事者の命と健康を支える「建設国保」に対する国庫補助について、医療費の伸びを勘案し現行の水準を維持するように、財務、厚生労働の両省に申し入れました。建設国保組合を運営する全国建設労働組合総連合の要請に応えたものです。申し入れに対して、上野賢一郎財務副大臣は、現行水準を維持するよう努めると応じました。



左からはたの、山添、笠井、右から、大門、宮本の各議員

## 辺野古土砂投入を批判 横浜・山梨で抗議

はたの議員、木佐木ただまさ神奈川県議、古谷やすひこ横浜市議は12月14日夜、JR鶴見駅前、安倍政権による名護市辺野古沿岸の土砂投入に抗議する宣伝を行いました。国会から駆け付けた、はたの議員は「普天間基地は、米軍も認める『世界一危険な基地』。アメリカ本国に引き取ってもらうべきだ」と強調。「政治は必ず変えられる。市民、県民、国民の声が届く政治を実現しよう」と訴えました。

木佐木県議は「米軍基地が集中する神奈川からも強く抗議したい」と、基地被害に苦しむ沖縄県民の声を無視する安倍政権を批判。また古谷市議は、同日発表された「共に声を上げ、共に行動して」とのデニー沖縄県知事のコメントを読み上げ、「違法な土砂の投入も新基地建設も許さない。私たちは連帯します」と表明しました。



左から、古谷市議、木佐木県議、はたの議員

## 国のやり方ひどい通行人ら署名次々 甲府で宣伝

12月13日、甲府駅南口で新日本婦人の会山梨県本部が、新基地建設中止を求めて宣伝・署名行動をしました。榊原事務局長が「沖縄県民の民意を踏みにじる安倍政権は絶対に許せません。辺野古新基地建設中止と普天間基地の無条件撤去を求める署名にご協力ください」と呼びかけました。

通行人らが「国のやり方はひどい」などと次々と署名に応じました。行動には8人が参加。30分で、25人が署名しました。



署名に応じる女性=12月13日甲府市